

第 15 回国際抗リン脂質抗体学会優秀賞受賞に際して

APS WG 委員 奥健志（北海道大学医学部免疫代謝内科学分野）

この度、2016 年 9 月 21 日～24 日に北キプロスで行われた 15<sup>th</sup> International Congress on Antiphospholipid Antibodies において Abstract Recognition Award(Innovation and Excellence)を受賞しました。

この学会は 3 年に 1 度開催される抗リン脂質抗体症候群(APS)に関する最高峰の国際学会で現在の APS 分類基準である Sapporo Criteria Sydney Revision という名前もそれぞれ 1998 年、2004 年に札幌、シドニーで行われた同学会で策定されました。今回はもともとイスタンブールで行われる予定でしたが、同国の政情不安定のため、直前になり急遽地中海のトルコ沖合 50km ほどに位置する島国、キプロスで行われることになりました。

日本からは飛行機を乗り継いでおよそ 17 時間、キプロスの首都ラルナカに降り、そこから更に、殺風景な砂地と枯れかかったオリーブの木々が点在する山道をタクシーで 1 時間あまり走った北キプロスに今回の会場 Elexus Hotel がありました。周りには地中海の浜辺と山しかないような場所だったのですが、専用の学会場に加え、4 つのプール、カジノ、レストラン、スパ…となんでもある様なホテルで、食事はレストランで好きなものをなんでも…というスタイルで大変に快適でした。

さて、学会賞なのですが、今回、A patient-derived autoimmune IgG type monoclonal anticardiolipin antibody that binds to  $\beta$ 2 glycoprotein I domain I but not to total  $\beta$ 2 glycoprotein-I molecule という演題で発表いたしました。これは、タイトルの通り、新たに作成したヒトモノクローナル抗カルジオリピン抗体のユニークな性質に着目したものです。病原性を有する抗カルジオリピン抗体の対応抗原は $\beta$ 2GPI であることは知られていますが、今回作成したモノクローナル抗体は、病原性を有する抗カルジオリピン抗体であるものの、現在の抗 $\beta$ 2GPI 抗体測定 ELISA では検出されません。しかし、 $\beta$ 2GPI domain I にその対応抗原があることが判明しております。それと共に、患者データでも同様に、抗カルジオリピン抗体 ELISA 陽性であるものの抗 $\beta$ 2GPI 抗体 ELISA は陰性であり、かつ抗 $\beta$ 2GPI domain I への自己抗体が検出されるという一見 complicated な profile を示す一群があることが判明しました。即ち、抗カルジオリピン抗体 ELISA はそのような一群を拾い上げる為に必要ですし、また、他

の患者データから、必ずしも、抗 $\beta$ 2GPI 抗体 ELISA がカルジオリピン・ $\beta$ 2GPI 複合体に対する病原性自己抗体を十分検出できているということではないことも示唆されました。

この研究は抗カルジオリピン抗体 ELISA 測定の意義について改めて認識させたということと、 $\beta$ 2GPI への自己抗体の対応エピトープの複雑さや $\beta$ 2GPI 自体の構造変化について示唆を与えると存じております。

この結果につきましては 10 月 29 日にフクラシア品川（東京・品川）で行われます第 4 回 APS ワークショップ学術集会で発表致しますので、どうぞ多くの方に御集まり頂ければと存じております。

これからも APS 患者様のために基礎・臨床研究を進めていく所存です。どうぞ宜しく御願いたします。